令和2年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

○社会の中で自立して生活ができる力の育成 中長期目標 (学校ビジョン) ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育

今年度の 重点目標

職業的自立と主体的な社会参加に向けた確かな力の育成

琴の浦教育検証プロジェクトに基づいたカリキュラムマネジメント

地域との協働による魅力的な学校づくり

	左	中 小	žπ		新/来 绘 E	1	(1)日
評価項目	年 評価の具体項目	<u>度</u> 当 現 状	初 目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策		評価	(1)月 改善方策
社会となった。一直は、大きなのでは、ためのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、ためのではないのではないのではないのではないでは、ためのではないではないのではないではないではないではないではないでは、ためのではないではないでは、ためのではないではないではないではないではないではないではない	○基本的生活習慣の確立	・「生 で学習規律」や「生 徒心得」の学校ルルでい が十分に徹底されてい ない。 ○自分の気持ちをコン トロールする方法が思 からず、正しいない生徒 がいる。	ントロールしながら、 ・学校守って ・学を守ってきる。 ・生徒自らが規律を ・おうて、 ・おきをもって、 ・まないできる。 ・ないできる。 ・ないできる。	を理解させるため、LHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 〇自分の気持ちのコントロールの仕方、正しい意思表示の仕方を一人一人の実態に応じて指導し、教職員で共通理解を図る。 〇一人一人の意見を大切にし、様々な悩みや不安を互いに支える仲間づくり(学級づくり)に努める。	た。	В	○挨拶、返事、仕事を守を ・ 大事に生活を ・ 大事を任を ・ 大事を任を ・ 大事を任める。 ・ 大きを ・
		感染防止のため、全生 徒がマスクを着用して いる。しかし、正しく 着用できなかったり、 手洗いが不十分だった りしている。	スク着用をしたりして、健康や衛生に留意しながら生活することができる。	いけないのか、手洗いをしなければいけないのかLHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○新型コロナウイルスやインフルエンザ等、社会で起きているタイムリーな正しい情報や知識を具体的にわかりやすく説明する。		A	○来年度も、今年度同様、新型コロナウイルスのタイムリーな正しい情報や知識を具体的にわかりやすく説明する。 ○なぜ、マスクをつけなければいけないのか、手洗いをしなければいけないのかを、LHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。
		利用しているが、長時間使用したり、トラブルの要因となったりすることがある。 ○使い方の習得が不十分な面がある。	方について個々の ルールを守ることが できる。	う。 ○情報化推進担当と連携を図 る。 ○個人懇談等を通して家庭と情 報共有を行う。	徒・保護者で「我が家のルール」の作成や見直し・確認を行ったが、個々のルールへの意識が十分でない。 ○外部講師等より情報モラルに関する資料提供等を受けて指導にあたった。		
		する生徒は増えたが	いる社会人としての 基本を、専門の授業 の中では常に意識す る姿が見える。	通目標振り返りシートや実習日 誌での自己評価・他者評価を繰 り返す。 ○専門共通目標は、スローガン 的な短い言葉にまとめる。	で、意識づけを行った。 ○定期的に目標の意図について確 認したり、毎時間の振り返りをし たりすることで、生徒の意識は高		○今後も、継続して共通目標を意識して活動できるよう、環境づくりの継続と繰り返しの指導をしていく。
		ら積極的に挨拶をする 舎生は少なく、職員か らの挨拶に「おはよう ございます」「帰りま した」など、きちんと 返答のできる舎生は5 割程度である。	拶ができる舎生と 職員からの挨拶に きちんと返すこと ができる舎生が8 割程度いる。	○挨拶強化週間を設定し、 能動的な挨拶の定着を図 る。	○自己評価と他者評価の差がある舎生もいるが、面談での評価や振り返りを繰り返すことで一人一人の挨拶への意識は高くなった。また、強化週間が意識向上につながり、設定した目標を実践しようとする気持ちも高くなった。 相手の挨拶に返すことはほとんどの舎生ができる。自発的な挨拶はもう一歩である。		○引き続き指導員の積極的 な挨拶を励行し、舎生が挨 拶のしやすい雰囲気づく り、また定期的な面談での 評価と振り返りを継続す る。
	○学習における基礎・ 基本の徹底	発表と姿勢の項目が中間評価以降、生徒の自己評価が下がった。授業に向かう気持ちを育成する必要がある。 ○本年度より道徳の授	業準備、チャイム着 席、挨拶、姿勢、発 表)が継続的に守ら れている。 ○自ら学ぼうとする 力やより良く生き いこうとする力が	ために、余裕を持ったチャイム 着席と朝読書を徹底する。 ○わかりやすい授業を展開し、 学習に向かう態度を育成するた めに学習内容や支援を検討をす る。	○生徒アンケートより前後期とも 8割以上の生徒が「学習のルール」を守っていると回答、また、 どの学年も朝読書の取り組みがる。 くなった。「勉強がわかる」は8 割前後だが、「授業が楽しい」は 学年により差がある。 ○基礎的な学力を身につけさせているものの、深まるまでには至っていない。	В	○生徒個々の到達度をもう 少し明確にする。個別直 導計画の個人目標の見直 を行う。 ○より良く生きていこう育と でよるために考える力ととする。研究研修担当 し授業改善のための情報発 信を行う。
		員の関心は高いが、特に 普通教科において、お互 いの授業を参観し合った り、指導・支援について 学び合ったりする機会が 十分でない。	会等の中で研修した ことを授業改善に活 かしている。	ニーズに合った授業研究会を実施する。 ○授業参観シートを活用し、改善案を共有する。	○教科ごとに検討した授業改善のポイントをもとに、1人1授業研を実施した。教科を超えての参観者もあり、それぞれが自身の授業改善に活かすことができた。		○生徒一人一人が活動に参加し、より深く考え、達成感を感じることのできる授業になるように、授業改善のための研修を継続していく。
	○ライフスキルの育成	路選択の見極めが不十分 な生徒がいる。 ○働く意欲や心構えが不 十分なままに就職してし まう生徒がいる。	題を理解している。 (2年生)自分の適 性を知り、進路を具 体的に考えている。 (3年生)自分の適 性を踏まえて進路を	等を計画的に実施するととも に、振り返り等を工夫し生徒の 意識を高める。 ○職員研修や通信等で卒業後の 生活に関する情報を発信すると ともに、必要な指導について意	将来について考える機会として、 進路担当や卒業生の話を聞くセミ ナーや進路指導室での相談日を設 けた。また、職員研修で情報共有 や意見交換する場を設定した。そ の結果、学年が上がるにつれ、将 来の生活を意識して取り組むよう になり、3年生は1月現在で約9 割の進路が決まった。	В	○今後も職員研修や通信等で、必要な情報を提供したり、意見交換したりする機会を設けていく。 ○進路指導室を効果的に活用するなど、生徒が将来について考えられる環境を整えていく。

様式 2	○職業的スキルの伸長	○各コースで地域産業	○地域産業という他	○専門共通目標についての評価	○校外活動の時に校外の方に記入		○今後は、評価シートの利
		との連携を進されていどを記述していどをといる生徒にしている生徒は、社会とない。は、社会に出れば組織の目がをはない。は、は、はなるがそのは、はは少ない。 「現場実習での生徒ー	者からの評価を通し、組織の一員としての自覚を持ち、自分の今後の目標を立てることができる。	シートを活用する。 ○地域産業と協働する際に、評価シートの記入をお願いし、そ	していただく専門共通目標の評価 シートを完成させた。また、利用 できる活動から利用を始めてい る。	В	用を促進するとともに、結果の活用に努める。 ○進路との連携は今後も継
		人一人の課題につい	徒一人一人の課題を 把握し、コースの特性を活かしながら、 生徒に必要な職業的 スキルを伸ばす教育 を行う。	課題について、コース担当者で 共有する方策を考える。 (コー ス会での議題にする) ○進路と連携して研修を行う	し、社会が求める力とそれを育て るためにコースとしてできること の理解を深めた。 ○生徒一人一人の課題(働くため に身に付けるべきこと)につい て、共有できているコースとでき ていないコースとがある。		○世路との連携は「後も継続して行う。○生徒一人一人の課題について、全コースが共有できる方策を考える。
	○自治活動の推進	など生徒が主体的に活動する場面が増えている。	よくしようという意 識をもって、意欲的 に活動や企画運営に 関わることができ る。	るよう活動の目的や課題を確認しながら計画的に話し合う機会を設ける。	ち、学校をよりよくするため、意 欲的に話し合いに参加する姿が見 られてきているが、生徒会執行部 として意識の低い生徒も数名い る。	С	○引き続き、活動の目的や 課題を確認しながら、生徒 同士で意見を出し合えるよ う計画的に話し合う機会を 設ける。 ○自治活動に関心を持ち、 意識を高められるような取 り組みを工夫する。
地域で生きる力の育成		○琴海会3役は役割を 自覚し活動できるよう になってきたが、第一 長の中にはリーるだけ にただ出席するだけ で、リーダーともい 自覚が薄い舎生もい る。	リーダーであること を自覚し、リーダー 全体で琴海会運営に 関わることができ	リーダー会で意見を出せるよう な体制を考え、構築していく。 ○部屋長が自治活動に主体的に 参加できるよう役割を明確化す る。	○今年度は全体会ができず、これを機会に部屋長を他のの舎生をができませられている。 を機会の連携役として活動できることができません。 うての自覚をきた。意見を出したりまで役割を活動できるしたりでとはができる。 一次では割を活動できるとが増えていった。 一が増えていった。 一が増えていった。 一が増えていった。 一が増えていった。 一が増えていった。 一が担うことになります。 生が担うことになります。 生が担うではあるが活動できないる。		○今年度のように部屋長が 部屋会とリーダー会の連携 役となる機会を設け、活動 を通して、部屋長も自治会 活動リーダーである自覚を 高めていく。
	○生涯体育、文化、芸術活動の推進		地域でのスポーツ活動、文化芸術活動の情報を知る。 ○卒業後に活きる、	活動担当者が中心となって、各種イベント参加や出展参加を促す。 ○大会参加方法や活動状況を掲示したり発表したりし、生徒に情報発信していく。	○新型コロナウイルス感染拡大により、積極的に対外的な大会やイベントに参加することは難しかった。しかし、ダンス部は映像でダンスを配信したり、卓球部、バスケットボール部は感染に気をつけながら試合等を実施したりすることができた。	С	○来年度も、現在の状況の 中で、イベントや大会等に 参加できるよう、参加方法 を配慮、工夫していく。
	○コミュニティ・ス クールの推進		成に向けて、各関係	を、継続・拡充する。 ○学校を会場に取り組むことが	○技能検定に合わせて、臨時に見学と意見をいただく機会を設定した。その際に、企業への発信の仕方について助言をいただいた。	С	○情報収集のために、助言をいただいた外部の機関からの情報収集を進めていきたいる。さらに進めていきたい。 ○情報発信のために、facebookでの活用を始めた。様々な方法を活用して、情報発信を進めていきたい。
教職員の専門 性・授業力・組 織力の向上		○職業的・社会的自立 を見据えた進路選択に つなげていけるだけの 情報が、地域の学校に 対して十分に伝わって いない。	ついて、地域の学校 の関心や疑問に応え るための工夫ができ	図る。 ・地域の学校とつながりを作る	○学校公開や体験入学等中止により、来校時の聞き取り、情報提供の機会が不十分だった。 ○内容や人数、時間等限定する中での11月説明会、オープンスクールの実施を実施した。 ○接業やメッセージ動画の作成、動画を通した情報提供を行った。 ○相談会策を明確化し、共有を進めてきた。	В	○地域のニーズを踏まえ、ニーズのある多くの人に対応できる情報提供の仕方や内容を工夫する。 ○引き続き相談会等で上がった課題に対し、対応策を明確化、共有する。
	○組織的な指導・支援、対応力向上	○コンプライアンスの意 識は高い状況にあるが、 交通法規遵守等において はうっかりが見られる。	の意識を常に持ち、 職務の遂行にあた る。 (M・Mラリー 100日更新)	ミニ研修会を行う。	○機会を捉えながら通知の周知を したり職朝で注意喚起を行ったり してきた。M・Mラリーは、何回 かリセットしたことによって1月 時点では約80日となっている。	С	○交通法規遵守に関しては、うっかりでで違反が見られた。意識することはもちろんだが、時間的ぐ要因とりがうっかりを防ぐとりのある移動を進めていく。 ○意識が継続するためには、定期的な注意喚起が必要となる。
		外業務は大きな改善が見		削減にあわせて業務内容の検討 を行う。	○1月現在で、時間外業務45時間を越える職員はいなかった。しかし、年間360時間に迫る職員はおり改善が必要となってくる。	A	○時間外業務の時間が目安 となるが、合わせて業務の 削減や整理を進めていく。